

[報 告]

令和 5 年度全国共同利用情報基盤センター顕彰について

第 41 回全国共同利用情報基盤センター長会議において、東北大学情報部デジタル基盤整備課七尾晶士技術専門職員及びデジタルサービス支援課山下毅技術専門職員に、令和 5 年度全国共同利用 情報基盤センター顕彰「功績賞」を授与することが決定されました。本賞は、全国共同利用情報 基盤センター及び国立情報学研究所の運用に顕著な貢献があった者に授与されるものです。

七尾氏は平成 7 年に大型計算機センター（現・サイバーサイエンスセンター）に採用となり、同年 5 月理学部附属原子核理学研究施設に配置換となった後、平成 17 年 5 月に評価分析室に配置換となってからはサイバーサイエンスセンターとの連携も強まり、平成 24 年 4 月に情報部情報基盤課に配置換となりました。配置換後は、全学的な基幹ネットワークの業務を担当し、現在もデータシナジー創生機構のもと、全学的な情報化推進事業や全学基幹ネットワークシステムの仕様策定、構築等にも中心的な立場として従事しています。また、同氏は、SINET 接続に関すること、学内ネットワークの幹線や無線 LAN システムの構築・運用を中心に深く関わるなど、多岐に渡る業務を積極的に遂行し、本学の情報化推進に寄与しています。

山下氏は平成 17 年に東北大学電気通信研究所に採用となり、その後平成 22 年にサイバーサイエンスセンターに配置換となりました。配置換後は、高性能計算に関する全国共同利用・共同研究拠点活動に係る利用支援、高性能計算基盤を活用した社会貢献活動に多大な貢献をされてきました。また、同氏は、利用者に対する利用支援、定期的で開催される利用者講習会を開催、また講師としても務め、センターの計算機サービスの質の向上に寄与するほか、利用者コードの高速化・並列化支援を行うなど、大型計算機システムの利用率の向上に大きな成果をあげています。

以上のように、七尾氏はネットワーク関連業務の推進に、山下氏は全国共同利用の推進にそれぞれ永年にわたって尽力し、サイバーサイエンスセンターの円滑な運営に多大なる貢献を果たしていることが今回の受賞に至った理由となっています。授賞式は、1 月 29 日(月)に開催された第 42 回全国共同利用情報基盤センター長会議内で行われ、両氏と他 2 名（北大・東京大）の受賞者の方々に表彰状と副賞（楯）が手渡されました。

『受賞者のコメント』

東北大学情報部デジタル基盤整備課（サイバーサイエンスセンター） 七尾 晶士

この度は栄誉ある賞をいただき大変有り難うございます。今回の受賞は、ネットワーク係、デジタル基盤整備課、データシナジー創生機構の皆さま、そして TAINS を支えてくださっている部局の皆さまのおかげであり、大変感謝しております。この受賞を励みに、今後も TAINS を利用している皆さまに質の高いサービスを提供し、TAINS の発展に貢献できるよう努めてまいります。どうもありがとうございました。

東北大学情報部デジタルサービス支援課（サイバーサイエンスセンター） 山下 毅

この度は栄誉ある賞をいただき大変光栄に存じます。今回の受賞は計算機システムの運用に関わる教職員をはじめ、センターをご利用くださる皆様のご指導とご支援によるものと、心より感謝申し上げます。引き続き、センターをご利用いただく皆様にはより良いサービスをご提供し、微力ながら研究成果創出の一助と計算科学技術の発展となる様に努めて行く所存です。この度はこのような機会を賜りまして誠にありがとうございました。

